

一般科目 カリキュラム

● 基礎科目

数学

数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
多変数の微分積分学
行列式と行列の応用

英語

英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
英会話Ⅰ、Ⅱ

理科

物理Ⅰ、Ⅱ
化学、総合理科Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

基礎科目
(必修科目)

社会

地理・歴史Ⅰ、Ⅱ
政治・経済Ⅰ、Ⅱ
倫理・社会

国語

国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

体育

保健・体育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

● 応用科目

4 年

5 年

【選択１】

- 現代社会論Ⅰ…①
- スポーツ科学
ラケット・コース…②
ゴルフ・コース…③
トレーニング・コース…④

【選択２】

- ①近代と文学
- ②国語表現
- ③法学 ④経済学
- ⑤工芸（半期のみ）
- ※前期・後期の２回
開講

【選択１】

- 東アジアの
中の日本…①
- 健康科学
ゴルフ・コース…②
レクリエーション・コース…③
- 英語Ⅴ…④

【選択２】

- ①現代日本文学
- ②古典文学
- ③哲学
- ④現代社会論Ⅱ
- ※前期・後期の２回
開講

● 特別選択科目

科目名	開講学年	開講期間	内 容
数学応用力養成セミナー	3～4年	前期	「数学Ⅱ」演習
英語応用力養成セミナー	3～4年	後期	「英語Ⅱ」演習
進路支援セミナー（数学）	4, 5年	後期	公務員受験支援講座
進路支援セミナー（英語）	4, 5年	後期	TOEIC受験支援講座
進路支援セミナー（小論文）	4, 5年	後期	小論文対策講座
一般科セミナー			資格・外部試験の単位認定 「実用英語技能検定」「実用数学技能検定」 「漢字能力技能検定」等

平成24年度 一般科目 授業科目と担当教員

区分1	区分2	(細目)	授業科目	単位数	3年	4年	5年	科目担当	備考
必修科目	基礎科目	国語	国語Ⅰ	2					
			国語Ⅱ	2					
			国語Ⅲ	2	2				
		社会	地理・歴史Ⅰ	1					
			地理・歴史Ⅱ	2					
			政治・経済Ⅰ	1					
			政治・経済Ⅱ	1	1				
			倫理・社会	2	2				
		数学	数学Ⅰ	6					
			数学Ⅱ	6					
			数学Ⅲ	4	4				
			多変数の微分積分学	1		1		久保田, 浜田, 小鉢	G3
			行列式と行列の応用	1		1		久保田, 浜田, 小鉢	G4
		理科	化学	3					
			物理Ⅰ	3					
			物理Ⅱ	2	2				
			総合理科Ⅰ	1					
			総合理科Ⅱ	1					
			総合理科Ⅲ	1	1				
		体育	保健・体育Ⅰ	3					
			保健・体育Ⅱ	2					
			保健・体育Ⅲ	2	2				
		外国語	英語Ⅰ	5					
			英語Ⅱ	4					
			英語Ⅲ	5	5				
			英語Ⅳ	2		2		宇ノ木, 石貴, 岩下, 高木, ギール(非)	G5
			英会話Ⅰ	1					
			英会話Ⅱ	1					
			開設単位	67	19	4			
			履修可能単位	67	19	4			
選択科目	応用科目	人文	近代と文学	1		1		池田	G6
			国語表現	1		1		道園	G7
			日本現代文学	1			1	池田	G14
			古典文学	1			1	道園	G15
		社会	法学	1		1		小林	G8
			経済学	1		1		時松	G9
			哲学	1			1	小林	G16
			現代社会論Ⅰ	2		2		小林	G10
			現代社会論Ⅱ	1			1	遠山	G17
			東アジアの中の日本	2			2	今西(非), 時松	G18
		自然	スポーツ科学	2		2		四宮, 川尾, 森本(非)	G11-G13
			健康科学	2			2	四宮, 川尾	G19-G20
		芸術	工芸	1		1		今年度開講せず	
		外国語	英語Ⅴ	2			2	宇ノ木	G21
			開設単位小計	19		9	10		
			履修可能単位	8		4	4		
	特別選択科目	基礎	数学基礎定着セミナーa	1					
			数学基礎定着セミナーb	1					
			英語基礎定着セミナー	1					
			情報基礎定着セミナー	1					
		応用	数学応用力養成セミナー	1	1			浜田	G22
		応用	英語応用力養成セミナー	1	1			宇ノ木	G23
		発展	進路支援セミナー(数学)	1		1		浜田	G24
		発展	進路支援セミナー(英語)	1		1		高木	G25
		発展	進路支援セミナー(小論文)	1		1		道園, 池田, 小林, 時松, 遠山	G26
		外部	一般特別セミナー	4				資格・外部試験の単位認定 「英語検定」「数学検定」 「漢字検定」等	G27
			開設単位小計	9	2	5	3	*一般特別セミナー(外部単位)を除く	
			履修可能単位	8	1	2	1	履修単位数は例示	
			開設単位	28	2	14	13	*一般特別セミナー(外部単位)を除く	
			開設単位合計	95	21	18	13	*一般特別セミナー(外部単位)を除く	
			基礎履修単位	75	19	8	4	*特別選択を除く履修可能単位	
			履修可能単位(基礎履修+特別選択)	83	20	10	5	*一般特別セミナー(外部単位)を除く	

【授業科目名】 多変数の微分積分学
Calculus of Several Variables

【対象クラス】 4年全学科

【科目区分】 基礎科目・必修
(教育目標との対応：B-1)
(JABEE 基準との対応：C)

【授業形式・単位数】 講義・1単位

【開講時期・授業時数】 前期・30

【担当教員】 濱田さやか (共通教育科)
(教員室) 一般科目棟 2F 濱田教員室
小鉢 暢夫 (共通教育科)
(教員室) 一般科目棟 2F 小鉢教員室
久保田 智 (共通教育科)
(教員室) 一般科目棟 2F 久保田教員室

【科目概要】

本科目は、2変数の微分法 (偏導関数、極値問題、陰関数の定理) と積分法 (累次積分、立体図形の体積、極座標変換) について取り扱うものである。

また、数学Ⅰ、そして数学Ⅱ (微積分) と数学Ⅲで学ぶ1変数の微分積分を基礎とした科目である。

本科目は、より高度な微分積分、解析学などを学ぶための入門であり、他の分野に応用できる素地となるところが多い。

【授業方針】

本講義は教科書を中心に進め、次の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する。

2変数の微分法と積分法における基本的な知識の修得と簡単な計算ができるようになることを目標とする。

【学習方法】

講義で取扱った授業内容は、教科書や問題集の問題を解くことにより復習を行う。また、次の講義に該当する箇所について、教科書を一読し予習してくる。

【達成目標】

1. □基本的な2変数関数の2次までの**偏導関数**を計算することができる。さらに、極値を求めることができる (**極値判定問題**)。また、**陰関数の定理**を用いて基本的な問題を解くことができる。
2. □簡単な条件付の2変数関数の極値を求めることができる (**条件付き極値問題**)。
3. □簡単な**重積分**が計算できる。また、基本的な**立体図形の体積**を、重積分を用いて求めることができる。

【教科書等】

教科書：新編 高専の数学3 (第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

問題集：ドリルと演習シリーズ 微分積分

日本数学教育学会 高専・大学部会

教材研究グループ TAMS 編 電気書院

参考書：基礎 微分積分学＝教養課程 24 講義＝
小林巖・宇内泰編 朝倉書店

【授業スケジュール】

1. 2変数関数
2. 偏導関数
3. 合成関数の偏導関数
4. 2変数関数の平均値の定理
5. 2変数関数の極大・極小①
6. 2変数の極大・極小②
7. 陰関数の定理
8. 〔前期中間試験〕
9. 条件付き極値問題
10. 重積分①
11. 重積分②
12. 重積分③
13. 重積分④
14. 極座標による重積分①
15. 極座標による重積分②

【関連科目】

本科目は、数学Ⅰ (1年)、そして数学Ⅱ (微積分) (2年) と数学Ⅲ (3年) で学ぶ1変数の微分積分を基礎とした科目である。

【成績の評価方法と評価基準】

2回の定期試験の成績 (80%) と、適宜実施する試験の成績 (20%) によって目標項目の達成度を評価する。評価の低い学生に対しては、再試験を行うこともある。

【学生へのメッセージ】

基本問題を何回も正確に解くことが大切です。また、講義や演習に関する質問は、数学科全員で対応しています。放課後を利用し気軽に声をかけてください。

【授業科目名】 行列式と行列の応用**Matrices and Determinants****【対象クラス】** 4年全学科**【科目区分】** 基礎科目・必修

(教育目標との対応：B-1)

(JABEE 基準との対応：C)

【授業形式・単位数】 講義・1単位**【開講時期・授業時数】** 後期・30**【担当教員】 濱田さやか** (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 2F 濱田教員室

小鉢 暢夫 (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 2F 小鉢教員室

久保田 智 (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 2F 久保田教員室

【科目概要】

本科目は、行列式の計算、逆行列の求め方、連立1次方程式の解法、および行列の対角化について取り扱うものである。

また、数学Ⅱ(ベクトル)と数学Ⅲで学ぶ行列と1次変換から継続するものであり、さらには専攻科の線形代数学への入門的な位置づけとなっている。

行列の理論は微分積分と並んで、理工系の数学の基礎として重要であり、コンピュータの利用にともない数値計算、線形計画などに応用されている。

【授業方針】

本講義は教科書を中心に進め、次の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する。

行列と行列式における基本的な知識の修得と簡単な計算ができるようになることを目標とする。

【学習方法】

講義で取扱った授業内容は、教科書や問題集の問題を解くことにより復習を行う。また、次回の講義に該当する箇所について、教科書を一読し予習してくる。

【達成目標】

1. □簡単な行列について、**行列式**の計算ができる。
さらに、**余因子**や**掃き出し法**を用いて**逆行列**を求めたり、**クラメル**の**公式**や**掃き出し法**を用いて**連立1次方程式**を解くことができる。
2. □簡単な行列について、**固有値**を求めることができる。さらに、**固有ベクトル**を求め、**対角行列**に変換することができる。

【教科書等】

教科書：新編 高専の数学2 (第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

問題集：ドリルと演習シリーズ 線形代数学

日本数学教育学会 高専・大学部会

教材研究グループ TAMS 編 電気書院

参考書：わかりやすい線形代数

秋山献之他 学術図書出版

【授業スケジュール】

1. 行列式の定義
2. 行列式の性質①
3. 行列式の性質②
4. 行列式の展開と積①
5. 行列式の展開と積②
6. 逆行列と連立1次方程式①
7. 逆行列と連立1次方程式②
8. [後期中間試験]
9. 掃き出し法①
10. 掃き出し法②
11. 連立1次方程式
12. 固有値と対角化①
13. 固有値と対角化②
14. 対称行列と直交行列①
15. 対称行列と直交行列②

【関連科目】

本科目は、数学Ⅱ(ベクトル)(2年)と数学Ⅲ(3年)で学ぶ行列と1次変換から継続するものであり、さらには線形代数学(専攻科1年)への入門的な位置づけとなっている。

【成績の評価方法と評価基準】

2回の定期試験の成績(80%)と、適宜実施する試験の成績(20%)によって目標項目の達成度を評価する。評価の低い学生に対しては、再試験を行うこともある。

【学生へのメッセージ】

基本問題を何回も正確に解くことが大切です。また、講義や演習に関する質問は、数学科全員で対応しています。放課後を利用し気軽に声をかけてください。

【授業科目名】英語Ⅳ English Ⅳ**【対象クラス】** 4年全学科**【科目区分】** 基礎科目・必修

(教育目標との対応：F－2，F－3，A－2)

(JABEE 基準との対応：f，b，a)

【授業形式・単位数】 講義・2単位**【開講時期・授業時数】** 通期・60**【担当教員】** 高木 朝子 (共通教育科)

(教員室) 共通教育科目棟3F 高木教員室

岩下 いずみ (共通教育科)

(教員室) 共通教育科目棟3F 岩下教員室

石貫 文子 (共通教育科)

(教員室) 共通教育科目棟2F 石貫教員室

ゲイル・ブレイブルックス (非常勤)

一般科目棟 1F 共通教育科非常勤講師控室

【科目概要】

英語Ⅳでは、異文化を理解するための手段としての英語力を高めることを目的としている。外国語コミュニケーションの指標となる **TOEIC に関する授業** の他、英語の様々な分野の学習を目的とした授業で構成されている。

【授業方針】

前期中間試験までは、**TOEIC 受験を視野に入れた英語トレーニング** を行う。その際、**基本的な文法事項の復習や語彙増強のための活動** を随時取り入れる。

前期中間試験以降は6週間ずつ**英語の様々な分野の学習を目的とした授業** をクラス単位で行う。

【学習方法】

それぞれの授業で、毎回、教科書や副教材等から予習、復習箇所とその取り組み方を指示する。授業内活動を有意義にするためにも十分な予習、復習を行った上で授業に臨むことが求められる。

特にTOEICの得点アップのために、授業以外での語彙力増強やリスニング力向上、また学習事項定着のために、地道な自学を求める。

【達成目標】

1. **実際に日常的に使われるレベル**の英語を聞いてその**概略を把握**することができるように**聴解力向上のためのトレーニング法に習熟**する。
2. TOEIC 受験に必要な**語彙力を増強**するため様々な活動に取り組み、その**語彙を使用**することが出来る。
3. **実際に日常生活で使用されるレベルの文章を速読し、大意を把握**することができる。
4. TOEIC の問題演習を通じてその**問題形式や解法に習熟**し、TOEIC 形式の**問題を解く**ことができる。さらに、実際にTOEICを受験し、400点以上の取得を目指す。

* 目的別授業については、授業の際に別途提示する。

【教科書等】

教科書：『Aim High for the TOEIC Test』

塩見佳代子 (成美堂)

『Duo セレクト：厳選英単語・熟語 1600』

鈴木陽一 (アイシーピー)

【授業スケジュール】

1～7週：ガイダンス、TOEIC トレーニング

8週：〔前期中間試験〕

9～15週：目的別授業その1

〔前期末試験〕

16～23週：目的別授業その2

〔後期中間試験〕

24～30週：目的別授業その3

〔学年末試験〕

* 教科書以外の教材については別途指示する。

【関連科目】

本科目は英語Ⅰ～Ⅲ、及び英会話での学習事項がベースになる。延長科目としての英語Ⅴや専門英語、そして課題研究時の文献講読にも関連する科目である。

【成績の評価と評価基準】

- * 目標項目はすべて定期試験と小テストで確認する。また、授業中の活動（問題演習および小テスト）や提出課題によっても確認する。
- * 最終成績は定期試験を80％、課題と小テスト、及び言語活動の評価を20％として算出する。授業進度や学生の習熟度により算出割合を変更することがある。60点以上を合格とする。成績は、TOEIC に関する授業と目的別授業のすべてを総合して算出する。なお、教員が必要と認めた時、再試験を実施する場合がある。

* 目的別授業については、授業の際に別途指示する。

【学生へのメッセージ】

- ・国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。
- ・講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを掲示しているので、確認すること。
- ・英語が苦手？勉強の仕方が分からない？大丈夫です！いつからでもやり直せるのが語学学習です。学習法についても、ぜひ相談してください。

【授業科目名】近代と文学

Modern Ages and Literature

【対象クラス】 4年全学科

【科目区分】 応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1)

(JABEE 基準との対応：a,b)

【授業形式・単位数】 講義・1単位 (学修単位)

【開講時期・授業時数】 前期、後期・30

【担当教員】 池田 翼 (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 1 F 池田教員室

【科目概要】

日本近代文学を代表する作品を読み、文学作品へのアプローチの基礎的な方法を身につける。文学作品を通して、**人間の多様性**を理解し、豊かな人間観を涵養する。本科目は日本近代文学の入門編である。

【授業方針】

テキストを用いて、中島敦、樋口一葉、夏目漱石、梶井基次郎、谷崎潤一郎、遠藤周作の作品を読み、**日本近代文学と人間の多様性**への理解を深める。

【学習方法】

- ・テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・講義後は論点を整理しておくこと。

【達成目標】

1. □中島敦「文字禍」について、その内容や特質を説明し、自分の意見を文章化できる。
2. □樋口一葉「十三夜」について、その内容や特質を説明し、自分の意見を文章化できる。
3. □夏目漱石「草枕」について、その内容や特質を説明し、自分の意見を文章化できる。
4. □梶井基次郎「檸檬」について、その内容や特質を説明し、自分の意見を文章化できる。
5. □谷崎潤一郎「春琴抄」について、その内容や特質を説明し、自分の意見を文章化できる。
6. □遠藤周作「海と毒薬」について、その内容や特質を説明し、自分の意見を文章化できる。

【教科書等】

教科書：「日本の近代小説」（改訂版）熊本近代文学研究会
編 協和書房

参考書：「日本の小説101」安藤宏編 新書館

【授業スケジュール】

1. 日本近代文学史概説
 2. 中島敦「文字禍」(1)
 3. 中島敦「文字禍」(2)
 4. 樋口一葉「十三夜」(1)
 5. 樋口一葉「十三夜」(2)
 6. 夏目漱石「草枕」(1)
 7. 夏目漱石「草枕」(2)
 8. [中間試験]
 9. 梶井基次郎「檸檬」(1)
 10. 梶井基次郎「檸檬」(2)
 11. 谷崎潤一郎「春琴抄」(1)
 12. 谷崎潤一郎「春琴抄」(2)
 13. 遠藤周作「海と毒薬」(1)
 14. 遠藤周作「海と毒薬」(2)
 15. 遠藤周作「海と毒薬」(3)
- [期末試験]

【関連科目】

国語Ⅰ、国語Ⅱ、国語Ⅲ
国語表現
古典文学、日本現代文学

【成績の評価方法と評価基準】

- *中間試験 (40%) 【達成目標】 1～3
- *期末試験 (40%) 【達成目標】 4～6
- *小課題 (20%) 【達成目標】 1～6
- *成績は、以上の合計とし、60点以上で合格とする。

【学生へのメッセージ】

小説の本文を丁寧に読むことを心がけてください。丁寧に読むというのは、分からない言葉は調べて、その内容を自分で説明できるようになるまで繰り返し読むということです。

講義終了時に小課題を出す予定です。各自考察したことを適切な文章にまとめてください。

試験は授業時を中心に普段から継続的に勉強して受けてください。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室してください。

【授業科目名】国語表現

Expression in Japanese

【対象クラス】4年全学科**【科目区分】**基礎応用科目・選択

(教育目標との対応：A1・F1)

(JABEE 基準との対応：a、b・f)

【授業形式・単位数】講義・1単位(学修単位)**【開講時期・授業時数】**前期、後期・30**【担当教員】**道園達也(共通教育科)

(教員室)一般科目棟1F 道園教員室

【科目概要】

情報化時代であると共にコミュニケーションの時代である現代において自分の考えを、話し言葉でも書き言葉でも「正しく」「わかりやすく」「感じよく」伝え合う表現法について、基本的な知識・能力を高め確かな力を育てる。

【授業方針】

自己表現の基本となる日本語運用の基本的な知識と能力を確かなものとする。

言葉への関心を持ち、表現への抵抗をなくし表現の基礎をおさえ、情報社会において必要な文章作成の基本技法(「伝え合う」ための基本技法)を身につけ、自分の考えを的確に説得力をもって述べる方法を学ぶ。

【学習の方法】

- ・毎時、文章の基礎について解説を聞き、ドリル形式で確認する。
- ・毎時、次時の授業予告をするので、予習をする。
- ・ディスカッションやプレゼンテーションなど様々な活動を行う。

【達成目標】

1. □文章の基礎(「表記」「表現」)を理解し運用できる。
2. □文章表現の基礎(「構成」「実践」)を理解し運用できる。
3. □伝え合う(説明・報告・紹介・伝達)ための形式や方法を理解し運用できる。
4. □説得力のある意見を文章化する土台となる表現ができる。

【教科書等】

教科書：『国語表現の実践』(京都書房)

参考書：適宜紹介する。

【授業スケジュール】

1. 日本語運用能力診断
2. 文章の基礎(1)
3. 文章の基礎(2)
4. 文章の基礎(3)
5. 文章の基礎(4)
6. 文章の基礎(5)
7. 文章の基礎(6)
8. [中間試験]
9. 文章表現の実践(1)
10. 文章表現の実践(2)
11. 文章表現の実践(3)
12. 文章表現の実践(4)
13. 文章表現の実践(5)
14. 文章表現の実践(6)
15. 文章表現の実践(7)
[期末試験]

【関連科目】

「国語Ⅰ」(1年必修)「国語Ⅱ」(2年必修)

「国語Ⅲ」(3年必修)「近代と文学」(4年選択)

「日本現代文学」(5年選択)「古典文学」(5年選択)

【成績の評価方法と評価基準】

- *達成目標1～3は、定期試験で確認する。
- *達成目標3～4は、授業時の活動、およびレポートで確認する。
- *成績の算出方法は、2回の定期試験の平均点(80%)＋レポート点(20%)とする。
- *上記の方法で算出した成績が60点以上で合格とする。
- *60点に満たない場合は、再試験を実施することもある。

【学生へのメッセージ】

授業への質問や要望は随時受け付ける。メールでなども活用して貰いたい。また、教員室前には授業や会議のスケジュールを掲示しているので、来室する際は確認をしておいて貰いたい。

日本語運用能力の能力を確かめること。そして、情報社会において必要な文章作成の基本技法を身につけ、自分の考えを的確に説得力をもって述べる力を身につけることができるように、受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチし、自分の日本語表現能力の補強を行って欲しい。

【授業科目名】法学 Jurisprudence**【対象クラス】4 年全学科****【科目区分】応用科目・選択**

(教育目標との対応：A-1, D-1)

(JABEE 基準との対応：a, b, d2-d)

【授業形式・単位数】講義・1 単位 (学修単位)**【開講時期・授業時数】前期、後期・30****【担当教員】小林 幸人 (共通教育科)**

(教員室) 一般科目棟 1 F 小林教員室

【科目概要】

現代は法秩序によって成り立っている社会です。本講義では、基本的な法知識を身につけるために、特に民法を中心に学びます。

民法は市民社会における全ての関係を権利と義務という概念で捉える法の世界です。それは契約関係、所有関係、侵害関係から構成されますが、ここでは契約関係からどのような権利・義務が発生するか、ある人が義務を怠った場合に権利者にはどのような救済があるのか、物に対する権利とはどのようなものか、権利が侵害された場合にはどのような救済があるのか、などについて概観します。

【授業方針】

実際に『六法全書』の条文を読みながら、契約法、所有権法、不法行為法について、基礎理論、基本原理に焦点をあてた講義を行ないます。また重要な判例をベースに作成した事例を取り上げることで、法的思考力が涵養できるように工夫をしています。

【学習方法】

- ・ 法律用語を難しく感じるかもしれません。授業でも説明しますが、図書館の文献などを参照して、自分でも調べてください。
- ・ 授業での説明を十分聞いた上で、まずは全体の流れを理解するようにしてください。
- ・ 事例問題などを考える際には、自分の感覚で捉えるのではなく、法に則って整理することが必要です。説明を理解するだけでなく、文章で説明してみる、などの学習を行ってください。
- ・ テキストは分かりやすくするために簡単な説明だけになっています。図書館の文献などを参考に、正確な知識を身につけてください。

【達成目標】

1. □法的責任の基本的知識を身につける。
2. □契約行為の基本的知識を身につける。
3. □不法行為と損害賠償の基本ルールが理解できる。
4. □契約責任と不法行為責任の違いについて理解できる。
5. □事例に関して、法に基づいた問題の理解・考察ができる。

【教科書等】

教科書：池田真朗他『法の世界へ (第4版)』(有斐閣、2006 年)、『ディリー六法 2009』(三省堂、2008 年)

参考書：内田 貴『民法Ⅰ (総則・物権総論)』、同『民法Ⅱ (債権各論)』、同『民法Ⅲ (債権総論・担保物権)』(東京大学出版会、1994-97 年)

【授業スケジュール】

1. 法とは何か：近代市民社会と法律
2. 契約とは何か：債権と債務
3. 契約の成立：公序良俗規程
4. 契約と意思表示：意思の不存在と意思表示の瑕疵
5. 物権：物権の性質
6. 物権変動の対抗要件、公信の原則、動産と不動産
7. 不動産の売買契約と担保物権
8. [中間試験]
9. 中間試験の返却と解説
不法行為と損害賠償：一般不法行為の要件
10. 不法行為と責任能力
11. 特殊な不法行為①：監督責任、使用者責任
12. 特殊な不法行為②：共同不法行為、運行供用者責任、製造物責任
13. 法的思考：事例演習
14. 不法行為責任と契約責任 (債務不履行責任)：医療過誤訴訟等
15. 日常生活と法：総括および演習
[期末試験]

【関連科目】

本科 1, 2 年「政治・経済」

専攻科 1 年「技術倫理」、専攻科 2 年「生産と法」

【成績の評価方法と評価基準】

成績評価は 2 回の試験で行います。それぞれの試験について 60 点以上を合格とし、最終成績は 2 回の試験の平均点とします。

また、合格に満たない場合、再試験を行います。再試験は学期毎に、60 点を超えない範囲で再評価します。

【学生へのメッセージ】

授業中にできるだけ演習を取り入れるつもりですが、授業だけではなく、受講者の自学自習が必要です。試験前には、希望者に対して補講を行います。自学自習のサポートと認識してください。

質問は毎回用紙を配付するほか、随時受け付けています。空き時間を確認して来室してください。

【授業科目名】経済学 Economics**【対象クラス】4 年全学科****【科目区分】応用科目・選択**

(教育目標との対応：A-1)

(JABEE 基準との対応：a,b)

【授業形式・単位数】講義・1 単位 (学修単位)**【開講期間・授業時数】前期、後期・30****【担当教官】時松雅史 (共通教育科)**

(教員室) 一般科目棟 1F 時松教員室

【科目概要】

21 世紀に入り世界の経済システムはますます資本主義(市場経済)が基本になりつつある。本講義では資本主義経済(市場経済)に現れる商品、貨幣、資本などの基本的な用語をマルクス経済学的に理解することを目指す。更に株式市場や先物市場の仕組みを学び、金利計算などにより経済感覚を養う。

【授業方針】

授業中に配布するプリントを元に講義の内容について出来るだけわかり易く、写真や図を用いて具体的に解説する。更に理解を深めるために株式売買シミュレーションをおこなう。そして学生が質問や意見を述べやすいように質問や意見の時間を設定する。

【学習方法】

授業の復習を確実にを行う。具体的には資料をもう一度読み直し、ノートも見直して自分で補足を入れておく。不明な点があればチェックして教員に質問するか、図書館で調べる。

【達成目標】

1. □経済学とは何かを学ぶとともに、**マルクスやケインズ**などによる様々な経済学説について、大枠を掴むことができる。
2. □日常使っている経済用語としての**商品、貨幣、資本**について、もう一度経済学としての専門用語として理解し、説明できる。
3. □資本主義における基本的な諸法則、例えば資本の増加について**価値法則**の理論から理解できる。
4. □株式市場を体験させるために机上で株式の取引を行ない、ここの銘柄でなく全体の**株価の動向**を掴むことができる。
5. □単純なローン計算などの**金利計算**ができる。

【教科書等】

教科書：特に指定なし。経済学、貨幣、株式、金利に関するプリントを配布する。

参考書：『経済原論』日高晋 有斐閣

【授業スケジュール】

1. 経済学とは何か
2. **経済学の学説**と歴史
3. 流通論・商品
4. 流通論・貨幣の発生について
5. **貨幣の機能**について (1)
6. 貨幣の機能について (2)
7. 流通論・資本 (1)
8. (中間試験)
9. 流通論・資本 (2)
10. **株式市場**と現代経済 (1)
11. **株式市場**と現代経済 (2)
12. 生産論
13. 利潤と地代
14. **先物取引**のしくみと役割
15. **ローン計算**について及び単利計算と複利計算 (期末試験)

【関連科目】

政治・経済Ⅰ、政治・経済Ⅱ、東アジアの中の日本

【成績評価】

1～5 の項目について、定期試験 (2 回) を基に評価する。総合成績は 2 回のテストの平均とする。なお、場合によっては総合点が 60 点未満の者について再試を行うことがある。

【学生へのメッセージ】

低学年時の「政治経済」と違い、経済の根本的な話しをするので「覚える」のではなく「考える」ことを重視して授業に望んでください。受身の姿勢では決して自分のものにならないと思います。

授業は解説をよく聞いて、ノートをしっかりまとめていくこと。そして疑問点があれば出来るだけその場で質問をしてほしい。本講義は理論だけではなく将来の生活にも役に立つ話も盛り込んでいるので積極的な授業参加を期待している。

質問は随時受け付けます。教員室前には授業、行き先を掲示しているのでスケジュールを確認して来室して下さい。また、メールアドレスも掲示しているので活用してください。

【授業科目名】現代社会論Ⅰ**Social TheoryⅠ****【対象クラス】4年全学科****【科目区分】応用科目・選択**

(教育目標との対応：A-1, A-2, C-1, D-1, G-1)

(JABEE 基準との対応：a, b, g)

【授業形式・単位数】講義・2単位(学修単位)**【開講時期・授業時数】通期・60****【担当教員】小林 幸人(共通教育科)**

(教員室)一般科目棟1F 小林教員室

【科目概要】

科学技術は、社会の課題を解決するために発展し、同時に様々な新たな課題を私たちに突きつけます。この科目では、現代社会がどのような問題を抱えているのかを概観し、また同時にこれからの科学技術者として社会とどのように関わっていくのかについて考察することを目的としています。現代日本の課題、世界と日本との関わり、そして科学技術と社会との関わりなどが主なテーマです。様々な問題を広い視野から考えていきたいと思っています。

【授業方針】

いくつかのテーマに従って、基本的には講義形式で授業を行います。ただし、問題を自ら考えるための訓練として、グループ討論およびプレゼンテーションなども予定しています。

また、専門学科教員との連携授業も予定しています。

【学習方法】

- ・現代の問題を取り上げますので、日常的に新聞・ニュースに注意してください。
- ・就職用の時事問題集などを参考に(図書館にあります)、具体的問題についての知識を身につけてください。

【達成目標】

1. □各テーマで取り上げる問題について、論点を理解する。
2. □自分の問題関心に基づいて、情報を収集・整理する事が出来る。
3. □学習成果について口頭または文章で論理的に説明することが出来る。
4. □自分の問題関心に沿ってテーマを設定し、広い視野から問題を理解し、自分の考えを述べる事が出来る。

【教科書等】

教科書：特に指定しません

参考書：「技術者入門」松島他著 学術図書出版社

「社会哲学を学ぶ人のために」

加茂直樹編 世界思想社

「応用倫理学のすすめⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

加藤尚武 丸善ライブラリー

その他、適宜授業中に紹介します。

【授業スケジュール】

1. ガイダンス：現代社会の問題
2. 現代社会について考える (GD 演習)
3. 少子高齢化の現状と課題
4. 男女共同参画社会に向けて
5. 社会福祉と財政問題
6. 課題解決に向けて (小論文演習)
7. 総括：少子高齢化と男女共同参画社会
8. [前期中間試験]
9. 前期中間試験の返却と解説、小論文演習
10. 雇用をめぐる問題
11. 日本型雇用の特徴とグローバル化
12. 労働者の権利と義務：労働法概説
13. 社会の複雑化とキャリア開発 (小論文演習)
14. わが国における雇用問題 (プレゼンテーション演習)
15. 総括：現代社会の雇用問題
[前期末試験]
16. 科学技術と現代社会
17. リスク社会における科学技術
18. 消費者保護と企業活動
19. 企業の社会的責任 (CSR)
20. 環境問題の現状と国際協調
21. 現代社会の課題 (1) (GD 演習)
22. 総括：科学技術と現代社会
23. [後期中間試験]
24. 後期中間試験の返却、小論文演習
25. 現代社会の課題 (2) (GD 演習)
26. 現代社会の課題 (3) (プレゼンテーション)
27. 世界と日本 (1)：国際協力の現状と課題
28. 世界と日本 (2)：世界経済の状況
29. 世界と日本 (小論文演習)
30. 総括：世界と日本
[学年末試験]

【関連科目】

本科1・2年地理・歴史、政治経済、3年倫理・社会、5年哲学、現代社会論Ⅱ、東アジアの中の日本
専攻科1年技術倫理、2年生産と法

【成績の評価方法と評価基準】

成績は4回の試験(80%)およびグループワークを踏まえたプレゼンテーション(20%)で評価します。試験については、平均60点以上を合格とし、成績不振者には再試験を実施することもあります。ただし、再試験による評価は60点を超えません。

【学生へのメッセージ】

私たちが生活する現代社会を問題にしていますので、自ら積極的に考える態度を期待します。

質問・要望等については随時対応します。スケジュールを確認して来室してください。また、授業の際に配布する質問用紙を積極的に利用してください。メールでの質問も受け付けますので、活用してください。

授業に関する情報を以下のアドレスで発信します。

なお、授業スケジュール中のテーマ、連携授業、グループワーク等については、適宜変更することもあります。

<http://s-pagein.st.yatsushiro-nct.ac.jp/~kobayasi/>

【授業科目名】スポーツ科学（ゴルフコース）**Sports Science (Golf)****【対象クラス】**4年生選択**【科目区分】**応用科目・選択

(教育目標との対応：A-3,G-2)

(JABEE 基準との対応：c, e, g, h)

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位**【開講時期・授業時数】**通期・60**【担当教員】**四宮 一郎（共通教育科）

(教員室) 共通教育棟 1F 四宮教員室、第1体育館

【科目概要】

スポーツ科ゴルフ・コースは、スポーツを科学するという観点からビデオ教材等にて正しいフォームを体得するとともに、ルールとエチケット等についても学習する。また、アスリートのための栄養学の基礎についても学ぶ

【授業方針】

安全に、服装正しく、ゴルフの基礎技術とルールやエチケット・マナー等を向上させる。また、競技力向上のための栄養学の基礎を学ぶ

【学習方法】

常に複数で練習し、お互いに長所・短所を指摘しあい、本コースを想定し、あらゆる場面を設定した実践練習を行う。練習ノートは常に携帯し、重要な指摘事項等についてはその都度メモしておく。

【達成目標】

- ☐ 技術の分析及び指摘ができる。
- ☐ 競技規則が理解できる。
- ☐ マナー・エチケットを実践できる。
- ☐ 打球のミートと方向性を高めることができる。
- ☐ 栄養素と食品の基礎知識を理解できる。
- ☐ 身体の仕組みを理解できる。
- ☐ エネルギー代謝について理解できる。
- ☐ 競技力向上のための栄養について理解できる。

【教科書等】

必要に応じ、資料を配布または、掲示するが、インターネット及びテレビ放映を活用し、歴史やルール、上級者の高等技術や練習方法を自学自習すること。

【授業スケジュール】

1. ゴルフ・コースの授業についてガイダンス、
2. セットアップとスイングの基本：栄養素の種類
- 3.～6 アプローチの基本(30ヤード以内)
：5大栄養素について、食品

7. アプローチ 実技試験

8. 前期中間試験

9. 試験の返却と解説

10.～13 ミドルアイアン

：身体の仕組み(消化、食物摂取と消化・吸収・代謝)

14. ミドルアイアン 実技試験

15. 前期末試験

16. 前期末試験の返却と解説

17～19 ウッド及びドライバーとパター

：エネルギー代謝

20. 課題練習：コンディショニングのための栄養(自己管理、内臓疲労)

21. 課題練習：エネルギー補給、アスリートの食事

22. 実技試験

23. 後期中間試験

24. 試験の返却と解説

25. バンカーショット

：アスリートに必要な糖質の摂取

26. バンカーショット 課題練習

：アスリートに必要な脂質の摂取

27. 課題練習

：アスリートに必要なタンパク質の摂取

28. 実技試験

29. 学年末試験

30. 試験の返却と解説

【関連科目】

健康科学、保健体育Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ

【成績評価の評価方法と評価基準】

技術 20%、理論 80%、の割合で評価する。ただし、出席時間数が規定に達しない場合は、評価しないので、公欠届け（試合等は事前に、忌引きは直後に提出すること。

【学生へのメッセージ】

週1回の授業だけでは必要な運動量の確保は難しいので、授業等で学習した知識や技術を日常生活の中で大いに活用して運動不足状態にならぬよう心がけて欲しい。

安全な授業展開のために、指輪・ネックレス・ピアスなどの装飾品は身に付けないこと。また、指定した体育服を着用して出席すること。

健康づくり。体力づくり、保健体育の授業内容やスポーツ関係の質問は、昼休みと放課後に研究室および第一体育館教員控室にて受けます。また、ゴルフの特別指導は4時限目(17時まで)ゴルフ練習場にて実施します。

【授業科目名】スポーツ科学

(ラケットゲームコース)

Sports Science

【対象クラス】4年生全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1, A-3, G-2)

(JABEE 基準との対応：a, b, e, g, h)

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講時期・授業時数】通期・60

【担当教員】川尾 勇達 (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 1F 川尾教員室、第1体育館

【科目概要】

1. ネットをはさんでボール(シャトルコック)を打ち合い、勝敗を争うスポーツである。
2. 様々な動きが組み合わされている全身運動なので、**総合的な体力**や運動能力を養うことができる。
3. ダブルスはパートナーと協力する楽しさがある。
4. 年齢、性別、体格などに応じ、老若男女が楽しめるので、**生涯スポーツ**として最適である。

【授業方針】

1. 競技力を構成するものとして、「**技術**」「**体力**」「**精神力**」があり、これがこの競技の競技力を向上させる要素といえる。そこで技能の最大のねらいは、シャトル(ボール)を打つ動作を習得し、攻め方、守り方等複雑な戦法を科学的、総合的に技能の向上をはかり、それらをダブルスやシングルのゲームでプレーできるようにすることである。
2. ゲームに参加する**態度、意欲、関心**、そして個人はもちろん集団として**健康や安全への態度**を養う。
3. 必要な**ルール**を学び、**試合の管理・運営・審判**ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う。

【学習方法】

1. 授業前に学習の計画、授業後に自己評価・反省・次への課題を見つけ記録しておく。
2. インターネットや図書館等を活用し、ルールやゲームの進めかた等を調べておく。

【達成目標】

1. □技能の向上を科学的練習法により習得し、各種大会の**計画立案と運営**ができる能力と審判法を養う。(生涯スポーツにつながるよう)
2. □健康・安全に対する関心と態度を養い、体力の向上をはかる。
3. □**社会的態度**を身につける。(規則を守る、責任感、協調性、安全性等)

【教科書等】

適宜バドミントンに関する資料を配布する。

【授業スケジュール】

1. テニスのオリエンテーション及び基本練習
2. ストローク、ボレー、フットワークの基本練習
3. ボール慣れ、ストローク、サービス

4. バックハンドストローク、ロブバック、ボレー
5. スマッシュ、複合練習、簡易ゲーム
6. 試合について講義、簡易ゲーム、技能の評価
7. 試合(団体戦)ダブルス・シングルス
8. (前期中間試験)
9. 競技会 個人戦シングルス
10. 競技会 個人戦ダブルス
11. 予備の試合(雨天)、技能の評価、アンケート
12. テニス大会の運営と実施(まとめ)
13. バドミントンのガイドダンス、慣れの練習
14. 基礎技術の説明とフラインクの練習 サービス
15. フラインクとサービス及びフットワークの基本(前期末試験)

16. 前期復習 フラインク、フットワーク、サービス
17. 班編成、班別ノック式練習、試合のビデオ見学
18. 総合練習と簡易ゲーム(半面)、技能の評価
19. 講義(バドミントンの科学的練習とは)他
20. シングルの試合(団体戦)
21. 個人戦(シングルス) ランク別(ABC)
22. ダブルスの基本(フットワーク、サービス)
23. (後期中間試験)
24. 班別練習、試合と審判法、スキルテスト
25. ダブルスの総合練習、ダブルスの簡易ゲーム
26. 班分け 団体戦(ダブルス) 技能の評価
27. 個人戦(ダブルス)
28. 競技会 団体戦(ダブルス3・シングルス2)
29. 競技会 団体戦(ダブルス3・シングルス2)(学年末試験)

30. 総合的競技会の運営と実施方法 アンケート
※天候の都合でテニスをバドミントンに変更もある。
下記の項目を各週の実技と併行して講義を実施する。

1. 心拍数からみた競技の特性
2. バドミントン競技の動きと筋肉
3. スタミナ向上には(ATと最大酸素摂取量)
4. 競技の身体移動とスピード
5. 試合で勝つ要因、負ける要因
6. トレーニングの一般原則
7. ラケットの使い方(内転・外転)
8. 食事からのアプローチ

【関連科目】

5年健康科学、保健体育Ⅲ

【成績評価】

4回の定期試験の平均(80%)と実技の習得状況(20%)を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

目標が何かを認識し実行することが授業です。そこで「考え」「気づき」そして「実行」できる体育の授業にしよう。健康づくり。体力づくり、保健体育の授業内容やスポーツ関係の質問は、昼休みと放課後に研究室および第一体育館教員控室にて受けます。

【授業科目名】スポーツ科学**(トレーニングコース)****Sport Science (Training)****【対象クラス】** 4年生選択**【科目区分】** 応用科目・選択

(教育目標との対応：A-3, G-2)

(JABEE 基準との対応：c, e, g, h)

【授業形式・単位数】 講義及び実技・2単位**【開講時期・授業時数】** 通期・60**【担当教員】** 森本 浩太郎 (共通教育科非常勤講師)**【科目概要】**

スポーツを行う者が、現状のレベルを上げるために取り組むものの1つがトレーニングである。また、日常生活をより快適におくる目的でも適度なトレーニングは効果が期待できる。多くの人にとって、体力を向上させるためにはトレーニングは欠かせないものである。

【授業方針】

1. 講義を通して、トレーニングに必要な身体の基本的な解剖・運動生理、さらには様々な理論や手法を学んでゆく。
2. 講義で得た知識を実際のトレーニングに用い、それぞれの目的にあった効果的なトレーニングを実践していく。
3. 態度やマナーを学ぶことで、円滑にトレーニングが行えるようにする。

【学習方法】

1. 資料を配布するので、よく理解しておくこと。
2. 毎回、負荷をかけたトレーニングを行う。また、怪我予防と柔軟性向上のため、ストレッチも行う。
3. 定期的に測定を行い、身体の変化を記録していく。

【達成目標】

1. □基本的な解剖、運動生理が理解できている。
2. □自分の体力をきちんと把握できている。
3. □それぞれのトレーニングの特徴を理解し、適切に使い分けることができる。
4. □トレーニング理論を理解し、実際のトレーニングに反映させることができる。
5. □セルフ・ペアストレッチを効果的に行うことができる。
6. □社会的態度(規則を守る・責任感・協調性・安全性)を育成することができる。

【教科書等】

適宜トレーニングに関しての資料を配布する。

【授業スケジュール】

- 1～2. スポーツテスト
3. オリエンテーション他
4. 身体の構造と機能1
5. 身体の構造と機能2
6. トレーニングと運動生理学
7. トレーニングと身体の適応
8. ペアストレッチ
8. [中間試験]
9. 前期中間試験の返却と解説
10. 様々なトレーニング理論・方法・原則1
11. 様々なトレーニング理論・方法・原則2
12. 様々なトレーニング理論・方法・原則3
13. 運動強度と筋収縮
14. 心肺機能と有酸素運動
[前期末試験]
15. 前期末試験の返却と解説
16. 器具・道具を使ったトレーニング1
17. 器具・道具を使ったトレーニング2
18. 器具・道具を使ったトレーニング3
19. 器具・道具を使わないトレーニング
20. 走力向上を目的としたトレーニング
21. サーキットトレーニング
22. 様々なストレッチ
22. [後期中間試験]
23. 後期末試験の返却と解説
24. 目的別トレーニング1
25. 目的別トレーニング2
26. 目的別トレーニング3
27. 目的別トレーニング4
28. トレーニングプログラムの作成1
29. トレーニングプログラムの作成2
30. トレーニングプログラムの作成3
[後期学年末試験]

【関連科目】

5年 健康科学、保健体育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

【成績の評価方法と評価基準】

*4回の定期試験及び実技を総合して評価する。
*定期試験の合計点〔50%〕+実技〔50%〕

【学生へのメッセージ】

始業時間を厳守すること。また、本授業で学んだ知識を今後の日常生活に活かし、生涯にわたり健康な生活を送ることができるよう努力してほしい。

トレーニングは、時として大怪我を招く危険な側面も持っているので、くれぐれも安全と体調に留意して取り組んでほしい。

【授業科目名】日本現代文学

Modern Literature

【対象クラス】 5年全学科

【科目区分】 応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1)

(JABEE 基準との対応：a,b)

【授業形式・単位数】 講義・1単位 (学修単位)

【開講時期・授業時数】 前期、後期・30

【担当教員】 池田 翼 (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 1 F 池田教員室

【科目概要】

文学作品の読解を通して、**文学作品へのアプローチの基礎的な方法**を身につける。また**人間の多様性**を理解し、豊かな人間観を涵養する。

本科目は日本現代文学の入門編である。

【授業方針】

本講義では昭和20年代より平成に至るまでの日本現代文学を代表する作品を取り上げ、時代背景、作家の特質を踏まえ、**文学作品と人間の多様性**への理解を深める。

なお講義終了時に小課題を出す。

【学習方法】

- ・作品、および関連資料を読む。
- ・講義後は論点を整理する。

【達成目標】

1. □昭和20年代の文学作品について、時代背景、および作家の特質を踏まえ、読解したことを適切に説明できる。
2. □昭和30年代の文学作品について、時代背景、および作家の特質を踏まえ、読解したことを適切に説明できる。
3. □昭和40年代の文学作品について、時代背景、および作家の特質を踏まえ、読解したことを適切に説明できる。
4. □昭和50年代より平成に至る文学作品について、時代背景、および作家の特質を踏まえ、読解したことを適切に説明できる。
5. □文学作品を読んで、考えたことなどを文章化できる。

【教科書等】

教科書：プリント配布

参考書：「現代日本文学全集」 筑摩書房

「日本の小説101」 安藤宏編 新書館

【授業スケジュール】

1. 日本現代文学史概説
 2. 昭和20年代 (1)
 3. 昭和20年代 (2)
 4. 昭和20年代 (3)
 5. 昭和30年代 (1)
 6. 昭和30年代 (2)
 7. 昭和30年代 (3)
 8. [中間試験]
 9. 昭和40年代 (1)
 10. 昭和40年代 (2)
 11. 昭和40年代 (3)
 12. 昭和50年代から平成へ (1)
 13. 昭和50年代から平成へ (2)
 14. 昭和50年代から平成へ (3)
 15. 昭和50年代から平成へ (4)
- [期末試験]

【関連科目】

国語Ⅰ (1年必修) 国語Ⅱ (2年必修) 国語Ⅲ (3年必修)
国語表現・近代と文学 (4年選択) 古典文学 (5年選択)

【成績の評価方法と評価基準】

- *中間試験 (40%) 【達成目標】 1、2
- *期末試験 (40%) 【達成目標】 3、4
- *小課題 (20%) 【達成目標】 5
- *成績は、以上の合計とし、60点以上で合格とする。
- *学期末において60点に満たない場合は、再試験を実施することもある。

【学生へのメッセージ】

小説の本文を丁寧に読むことを心がけてください。丁寧に読むというのは、分からない言葉は調べて、その内容を自分で説明できるようになるまで繰り返し読むということです。また関連資料も同様に熟読してください。

講義終了時に小課題を出す予定です (半期5回程度)。各自考察したことを適切な文章にまとめてください。

講義後は論点を整理し、試験対策に継続して取り組んでください。不明な点があれば、質問してください。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室してください。

皆さんの積極的な参加を期待しています。

【授業科目名】古典文学**Classical Literature****【対象クラス】**5年全学科**【科目区分】**応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1)

(JABEE 基準との対応：a, b)

【授業形式・単位数】講義・1単位(学修単位)**【開講時期・授業時数】**前期、後期・30**【担当教員】**道園達也(共通教育科)

(教員室)一般科目棟1F 道園教員室

【科目概要】

中国の古典は、日本人の生活や考え方の中に生き続けている。特に人生や社会、自然に対して述べられている思想や感情が人間の本質に触れ、読む人の心に感動を与える。

『論語』に記録された孔子と、その弟子たちの考え方、生き方を、的確に読みとり、今後の生活や人生について考えたい。

【授業方針】

漢文原文への抵抗感をやわらげ、漢文がもっと身近なものとなるように、漢文、訓読文、語注をプリントした教材を使用する。現代社会における事例も取り上げ、地球的視野に立った自分の生き方について考える手がかりとなるような授業にしたい。

【学習の方法】

- ・毎時、次回のプリントを配布するので、予習すること(訓読文の確認)。
- ・授業時に解説した現代語訳を参考に、論点整理等、復習すること。

【達成目標】

1. ☐ 漢文を的確に訓読し、調子を味わう。
2. ☐ 漢文の意味を理解し、説明できる。
3. ☐ 漢文の主張を、自分の問題に引きつけて理解できる。
4. ☐ 話し合いを通して、他人の考えを理解し、自分の考えを深めることができる。
5. ☐ 自分の考えを口頭、および文章で表現することができる。

【教科書等】

教科書：配布プリント

参考書：適宜紹介する。

【授業スケジュール】

1. 『論語』入門—吾れ十有五にして学に志す—
 2. 自己を知る(1)
 3. 自己を知る(2)
 4. 自己を知る(3)
 5. 学ぶことについて(1)
 6. 学ぶことについて(2)
 7. 学ぶことについて(3)
 8. [中間試験]
 9. 人間関係(1)
 10. 人間関係(2)
 11. 人間関係(3)
 12. 生き方について(1)
 13. 生き方について(2)
 14. 生き方について(3)
 15. 生き方について(4)
- [期末試験]

【関連科目】

「国語Ⅰ」(1年必修)「国語Ⅱ」(2年必修)

「国語Ⅲ」(3年必修)「近代と文学」(4年選択)

「国語表現」(4年選択)「日本現代文学」(5年選択)

【成績の評価方法と評価基準】

- * 達成目標1～2は定期試験で確認する。
- * 達成目標3～5は、授業時の活動とレポートで確認する。
- * 成績の算出方法は、2回の定期試験の平均点(80%) + レポート点(20%)とする。
- * 上記の方法で算出した成績が60点以上で合格とする。
- * 60点に満たない学生は、再試験を実施し達成度を確認することもある。

【学生へのメッセージ】

授業への質問や要望は随時受け付ける。教員室前には授業や会議のスケジュールを掲示しているので、来室する際は確認しておくこと。また、メールなども活用してもらいたい。

『論語』に記録された孔子と、その弟子たちの考え方や生き方を、的確に読みとり、今後の生活や人生について考える手がかりとしてほしい。

学生諸君の積極的な参加を期待している。

【授業科目名】哲 学 Philosophy

【対象クラス】5 年全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1, D-1)

(JABEE 基準との対応：a, b)

【授業形式・単位数】講義・1 単位 (学修単位)

【開講時期・授業時数】前期、後期・30

【担当教員】小林 幸人 (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 1 F 小林教室

【科目概要】

本講義では、現代社会における様々な問題を哲学的に考察することを通じて、幅広い視野で実際の問題を捉える訓練をおこなうことを目標とします。

【授業方針】

今年度は主に「認識と世界」「科学・技術と人間」「現代の倫理」というテーマを取り扱います。前期、後期ではテーマは異なりますが、哲学的な思考を体験することを主たる目的としています。

授業は講義中心におこないますが、それぞれのテーマについて、様々な哲学者の考え方を紹介しながら、最終的にはみなさん自身にその問題について考えてもらい、レポートを提出してもらいます。

【学習方法】

- ・ 授業での説明に関しては、議論全体の流れを理解するようにしてください。
- ・ 各テーマに関する論点を指示しますので、テキストや参考文献をよく読んでおいてください。
- ・ テキストや授業の説明で補えない部分については、図書館の文献等を参考に学習してください。

【達成目標】

1. □ 哲学的な思考について理解できる。
2. □ テーマについて、何が問題となっているのかを理解し、説明できる。
3. □ テーマの論点を整理し、指摘することができる。
4. □ 自分の考えを論理的に説明できる。
5. □ 自分の問題関心に沿ってテーマを設定し、それについて論理的に論述することが出来る。

【教科書等】

教科書：「技術者倫理」松島 他 学術図書出版社

参考書：「現代哲学の招待」城塚登他 有斐閣選書

「科学哲学」 小林道夫 産業図書

【授業スケジュール】

【前期】

1. ガイダンス 問題提起：認識と世界の存在
2. 近代的世界観：デカルトとベーコンの思想
3. 主観-客観と認識論上の問題
4. 自然科学の方法：実証主義
5. 科学的相対主義：理論負荷性のテーゼとパラダイム論
6. 哲学的認識論(1)：カントの認識論

7. 哲学的認識論(2)：フッサールの認識論

8. [中間試験]

9. 中間試験の返却と解説

10. 近代科学の精神

11. 科学技術がもたらす諸問題

12. テクノロジーとヒューマニズム：ハイデガーの技術論

13. 科学技術者の責任

14. 科学・技術と社会：STS (科学技術社会論)

15. 総括：現代社会と科学技術

[前期末試験]

【後期】

16. 問題提起：価値問題と事実問題～科学と哲学～

17. 道徳哲学の系譜

18. 義務論と功利主義：道徳哲学の理論

19. 倫理とは何か？

20. 価値相対主義

21. 個人と他者、および社会

22. 倫理規範の妥当性

23. [後期中間試験]

24. 試験の返却と解説

25. 科学技術と現代社会：現代社会の倫理問題

26. 応用倫理学(1)：環境倫理

27. 応用倫理学(2)：生命倫理

28. 応用倫理学(3)：情報倫理

29. 応用倫理学(4)：技術者倫理と企業倫理

30. 総括：科学技術と現代社会

[学年末試験]

【関連科目】

本科 3 年「倫理・社会」、本科 4 年「現代社会論 I」

専攻科 1 年「技術倫理」、専攻科 2 年「生産と法」

【成績の評価方法と評価基準】

2 回の試験とレポートによって評価します。試験とレポートの割合は以下のとおり。

試験…80% (目標 1～3)、レポート…20% (目標 4, 5)

試験では、授業内容の理解を評価し、レポートでは受講者の問題意識、論理的思考力、文章・構成力を評価します。なお、レポート未提出者は不合格とします。

成績不振者に対しては、学期毎に再試験を行い、60 点を超えない範囲で再評価します。

【学生へのメッセージ】

暗記ではなく、自ら考えるということが必要です。様々な考え方を覚えるだけでなく、何を問題としているのかという点を理解するよう心がけてください。

質問・要望等についてはいつでも対応します。スケジュールを確認して来室してください。また、授業の際に質問用紙を配布しますので、積極的に利用してください。メールでの質問にも対応します。

【授業科目名】 現代社会論Ⅱ
Social Theory II

【対象クラス】 5 年全学科

【科目区分】 応用科目・選択
(教育目標との対応：A-1, G-1)
(JABEE 基準との対応：a, b, g)

【授業形式・単位数】 講義・1 単位 (学修単位)

【開講期間・時間数】 後期・100 分

【担当教員】 遠山 隆淑 (共通教育科)
(教員室) 一般棟 3 F 遠山教員室

【科目概要】

現在生じている様々な問題を、単なる一時的現象として捉えるのではなく、そうした問題のより深い問題性に気づき、それについて考え抜く強靱な思考力を身につけてほしい。そのために、本講義では、ヨーロッパの思想を、「政治と宗教 (キリスト教)」、「権力」、「デモクラシー」というテーマに分け、各テーマごとに重要な著作を残した哲学者やその著作に注目しながら歴史的に論じていく。

【授業方針】

本講義は、マキアヴェッリ『君主論』など、政治や社会について論じた「古典」の重要箇所を記載した「講義資料」をじっくり読みながら、その内容を詳細に解説するというスタイルで行われる。「古典」という重厚な書物の読解を通じて、今後、様々な書物を自力で読むことができるようになるための方法を提示していく。

【学習方法】

- ・ 毎回のノートをきちんととること。ノート作りは、他人の話の要点を読みとるための最適の訓練の場となるため、絶対におろそかにしてはならない。
- ・ そのノートをもとに、講義の内容を自分自身でストーリー化して、講義全体の内容を自分の言葉でかみ砕いて理解する。
- ・ 自分で古典を読むことにチャレンジしてほしい。

【達成目標】

1. □キリスト教の思想について理解できる。
2. □宗教 (キリスト教、教会組織) と現世の世界との関係について理解できる。
3. □権力について、マキアヴェッリの思想を参照しながら説明することができる。
4. □デモクラシーの特徴について、ルソーの思想を参照し説明することができる。
5. □一人の独立した社会的存在として、自らを取り巻く社会について、自力で深く考えることができる。

【教科書等】

教科書：講義レジュメと講義資料を配布する。

参考書：佐々木毅他『西洋政治思想史』北樹出版。
その他、講義で適宜紹介する。

【授業スケジュール】

1. イントロダクション
2. 政治と宗教①—イエスと原始キリスト教
3. 政治と宗教②—イエスと原始キリスト教
4. 政治と宗教③—アウグスティヌスと悪の問題
5. 政治と宗教④—アウグスティヌスと悪の問題
6. 政治と宗教⑤—アウグスティヌスと悪の問題
7. 文章作成指導
8. [中間試験]
9. 権力①—マキアヴェッリ『君主論』
10. 権力②—マキアヴェッリ『君主論』
11. 権力③—マキアヴェッリ『君主論』
12. 権力④—マキアヴェッリ『君主論』
13. デモクラシー①—ルソー『社会契約論』
14. デモクラシー②—ルソー『社会契約論』
15. デモクラシー③—ルソー『社会契約論』

【関連科目】

関連する科目としては、地理・歴史 (2 年)、政治経済Ⅱ (3 年)、倫理・社会 (3 年)、現代社会論Ⅰ (4 年)、法学 (4 年)、哲学 (5 年)。

【成績の評価方法と評価基準】

- * 1～5 の達成目標について定期試験に主にに基づき評価する。加えて、授業ノートも評価対象にする。
- * 成績評価の割合は次の通り。前期中間試験 (50%) 期末試験 (50%)。
- * 上記で算出した最終成績が 60 点以上で合格とする。60 点未満の学生には、再試験を実施することもある。

【学生へのメッセージ】

「古典」を読み解説するという非常に高度な講義内容だと思いますので、講義で何が言われているのか、講義後に自分自身で熟考してみてください。分からない場合や、自分で何か思いついたら、ぜひ質問や議論をしに教員室に来てください。古典を読むという経験は、人生の中でも得難いものであり、また、人生をとて豊かにしてくれるものでもあります。はじめは取っつきにくいかもしれませんが、この講義を通じて、ぜひ古典そのものにチャレンジしてみてください。

【授業科目名】東アジアの中の日本**East Asian studies****【対象クラス】**5 年全学科**【科目区分】**一般応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1,A-2,G-2)

(JABEE 基準との対応：a, b, g)

【授業形式・単位数】講義・2 単位 (学修単位)**【開講期間・授業時数】**通期・60**【担当教官】**今西利之(熊本大学国際化推進センター)
時松雅史(共通教育科)

(研究室)一般科目棟 1F 時松研究室

【科目概要】

この授業では、**日本語教育**の歴史や現状を概観するとともに、言語としての日本語を客観的に見つめ直すための基本的な考え方について解説する。

日本はアジアの東端に位置し、歴史上、大陸からの高度な文化の摂取に成功し発展してきた。その日本の文化や生活について東アジアの近代の歴史の中で考えたい。最後に中国・韓国をはじめとする**東アジアの経済**を日本経済のかかわりについて解説する。

【授業方針】

日本語教育の概要、関連する社会問題を概観するとともに、具体的な言語事実をもとに、**日本語学・言語学**で用いられる基本的な概念を解説することを通じて、日本や日本語を意識的、客観的に分析する視点を養う。

東アジアにおいての日本の位置関係を理解させ、形成された文化(食文化)を考えさせる。さらに戦後の**東アジアの発展**について概説をおこなう。

【学習方法】

授業の復習を確実に行う。具体的には資料をもう一度読み直し、ノートも見直して自分で補足を入れておく。不明な点があればチェックして教員に質問するか、図書館で調べる。

【達成目標】

1. □日本とアジア諸国の関わりについて理解できる。
2. □日本語を**日本語学・言語学的な観点**から分析できる。
3. □日本語を分析するための**基本的概念**を理解できる。
4. □**日本語学習者**から見た日本語がどのようなものであるかを考えることができる。
5. □島国である日本が、東アジアの中で孤立した存在ではなく、むしろ積極的に門戸を開放していたことが理解できる。
6. □東アジアの近代史を経済的な観点から理解できる。
7. □**東アジア経済**と日本経済についての関わりを理解できる。

【教科書等】【教科書等】

教科書：講義内容に即したプリント(日本語、文化、

アジア経済)を配布する。

参考書：『新しい日本語学入門』庵功雄 スリーエーネットワーク

『日本語教育指導参考書 22 日本語教育のための文法用語』国立国語研究所

『ジャガイモのきた道』山本紀夫

『中国経済論』加藤弘之他 ミネルヴァ書房

【授業スケジュール】

1. 母語としての日本語
2. ある言語としての日本語
3. 外国人による日本語学習
4. 日本語教育の歴史(1)
5. 日本語教育の歴史(2)
6. 多言語社会の課題(1)
7. 多言語社会の課題(2)
8. (中間試験)
9. 日本語教育と文法(1)
10. 日本語教育と文法(2)
11. 日本語教育と文法(3)
12. 日本語の**音声・音韻**(1)
13. 日本語の音声・音韻(2)
14. 方言(前期末試験)
16. 屋敷囲いの石垣について
17. 砂糖と日本
18. 醤油と日本
19. お茶と日本
20. **イモと日本**
21. 朝鮮半島とトウガラシ
22. 欧米による植民地支配
23. (中間試験)
24. **中国の対外開放政策**と日本企業
25. 世界の工場中国と日本企業
26. 朝鮮半島と日本
27. **韓国**の発展
28. 「**日本の台所**」としての東南アジア
29. **アジア経済の発展**と日本(1)
30. **アジア経済の発展**と日本(2)

【関連科目】

地理・歴史Ⅰ・Ⅱ、経済学 地域経済論

【成績評価】

定期試験(4回)の平均により評価する。

【学生へのメッセージ】

普段から、日本語のさまざまな言語事実疑問をもち、日本文化に目を向け、自分の言葉で説明できるようにしてください。

質問は随時受け付けます。教員室前には授業、行き先を掲示しているのでスケジュールを確認して来室して下さい。また、メールアドレスも掲示しているので活用してください。

【授業科目名】 健康科学（ゴルフコース）**Health Science (Golf)****【対象クラス】** 5 年生選択**【科目区分】** 応用科目・選択

(教育目標との対応：A-3,G-2)

(JABEE 基準との対応：c, e, g, h)

【授業形式・単位数】 講義及実技・2 単位**【開講時期・授業時数】** 通期・60**【担当教員】** 四宮 一郎 (共通教育科)

(教員室) 共通教育棟 1F 四宮教員室、第 1 体育館

【科目概要】

健康科学は、**生涯にわたる健康づくり（運動・休養・栄養）**という観点で授業を展開する。また、自己の体組成及び体力について年間 4 回の測定を行い、自己の体組成及び体力の変化を認識する。実技については、各技術を分析し、運動力学やスポーツ心理学からゴルフを科学する。

【授業方針】

高専時代での学習に留めるのではなく、将来の生活における**健康や安全**に活用する態度を養う。また、実技は、安全を第一に、効率よく技術を会得させる。さらに、時間厳守と道具や施設の維持管理を励行することを強く望む。

【学習方法】

○健康に関する正しい情報を講義や新聞やテレビ等のマスコミから入手し、きちんと整理して実践する。
○ゴルフのスイングは、使用するクラブの**ロフト**どおりにボールを捉えることで距離や方向などの精度がきまる。よって、膝・腰・上体を望ましい姿勢で保ち、安定した**重心移動**を体得する。授業以外の時間帯で実践すると上達は早い。また、ビデオを活用するか複数で練習し、お互いのフォームを指摘しあうと欠点箇所が素早く修正でき、正確なショットができるようになる。授業は、毎回、前半を第 1 体育館にて講義を行い、後半にゴルフの実技を行う。

【達成目標】

1. □スポーツ選手の食事のあり方が理解できる。
2. □日常生活における身体活動水準が理解できる。
3. □運動不足と生活習慣病との関係が理解できる。
4. □各年代が抱える健康問題が理解できる。
5. □各種技術を会得することができる。
6. □用途によるクラブ選択が適確にできる。

【教科書等】

必要に応じ、資料を配布または、掲示するが、インターネットを活用し、最新の健康情報を入手し、日常生活の中で実践するなど自学自習に努める。

【授業スケジュール】

1. 授業方針と評価について・体力の自己測定
2. QOL と運動・体組成の自己測定
3. 現代の健康問題（生活習慣病）
4. 健康ブームとその背景（健康不安の増大）
5. 心の健康とは
6. 形態の意味
7. 脂肪蓄積のメカニズムとその影響
- 8～9. 前期中間試験 試験の解答
10. 適切な栄養・食事摂取
11. ストレス論
12. 嗜好と依存症
- 13～14. 体組成及び体力の自己測定
〔前期末試験〕
15. 試験の解答
16. 運動とエネルギー
17. 酸素摂取の仕組み
18. 有酸素運動がもたらす効果
19. 適切な有酸素運動
- 20～21. 体組成及び体力の自己測定
22. 〔後期中間試験〕
23. 試験の解答
24. 「身体技法」としての動き
25. 体力とトレーニング論
26. 筋力・パワー・筋持久力トレーニング
27. パフォーマンス発揮と心理
- 28～30. 体組成及び体力の自己測定
〔学年末試験〕

【関連科目】

スポーツ科学、保健体育Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ

【成績評価の評価方法と評価基準】

技術 20%、理論 80%、で評価する。ただし、出席時間数が規定に達しない場合は、評価しないので、公欠届け（就職等は事前に、忌引きは直後に提出する。）

【学生へのメッセージ】

前夜の睡眠、朝食を十分にとり、体調を整え、参加すること。週 1 回の授業だけでは必要な運動量の確保は難しいので、授業等で学習した知識や技術を日常生活の中で大いに活用して運動不足状態にならぬよう心がけて欲しい。

安全な授業展開のために、指輪・ネックレス・ピアスなどの装飾品は身に付けないこと。また、指定した体育服を着用して出席すること。

健康づくり。体力づくり、保健体育の授業内容やスポーツ関係の質問は、昼休みと放課後に教員室および第一体育館教員控室にて受けます。また、ゴルフの特別指導は 4 時限目（17 時まで）ゴルフ練習場にて実施します。

【授業科目名】健康科学

(レクリエーションコース)

Health Science (Recreatoion)

【対象クラス】5年生全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-3, G-2)

(JABEE 基準との対応：c, e, g, h)

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講時期・授業時数】通期・60

【担当教員】川尾勇達 (共通教育科)

(研究室) 一般科目棟 1F 川尾教員室・第1体育館

【科目概要】

生涯にわたり**健康**な生活を送るためには、**運動**は欠かせないものである。**生活習慣病**が社会問題となっている今日、運動を日常生活の一部として行っている人も少なくない。そこで本コースでは**生涯スポーツ**の見地から、健康に関する知識を土台とし、年齢に応じたスポーツ(ニュースポーツ)やゲームを取り入れ、レクリエーションの持つ社会的役割と余暇の善用および運動の必要性を学び、日常生活に役立てるようにする。

【授業方針】

授業は講義と実技からなり、100分の内前半50分を講義、後半50分は実技を行う。

講義については、レクリエーションの持つ社会的役割や軽スポーツ、ゲームの紹介、さらに社会で必要とされる健康に関する知識を習得する。

実技については、様々な軽スポーツやゲームを体験し、その楽しさを味わい、ルールやマナー指導法についても理解する。

【学習方法】

1. 授業中に配布した資料を読み、よく理解しておくこと。
2. レクリエーションに関する資料をインターネットや図書館を活用し、収集しておくこと。

【達成目標】

1. □レクリエーションの意味を理解し、分類することができる。
2. □レクリエーションが人に与える効果について理解することができる。
3. □レクリエーションの企画、運営について理解することができる。
4. □レクリエーションの指導法について理解し、実践することができる。
5. □健康と運動の関係を理解し、説明することができる。

6. □科学的視点から身体で行われている現象をとらえ、理解することができる。
7. □生活習慣病についての知識及びその改善方法を理解し、説明することができる。
8. □飲酒・喫煙の体への影響について理解し、説明することができる。

【教科書等】

参考書：「レクリエーション活動の実際」

池田勝 西野仁 永吉宏英 杏林書院

「新しい軽スポーツのすすめ」(体育を楽しく)

富山浩三他 杏林書院

その他適宜資料等配布する。

【授業スケジュール】

1. 健康科学の授業方針と評価方法について
2. レクリエーションとは何か
レクリエーションの分類
3. レクリエーションの効果
- 4～7. レクリエーションプログラムの企画と運営
8. (前期中間試験)
9. 前期中間試験の返却と解説
- 10～12. 健康と運動
- 13～14. 生活習慣病
(前期末試験)
15. 前期末試験の返却と解説
- 16～18. 生活習慣病と運動・食事
- 19～20. 運動量の計算(カロリーとメッツ)
- 21～22. 栄養素と食事とカロリー
23. (後期中間試験)
24. 後期中間試験の返却と解説
- 25～26. 飲酒と健康
- 27～28. 喫煙と健康
- 29～30. 疾病(感染症と予防)
(学年末試験)

【関連科目】

4年スポーツ科学 保健体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【成績の評価と評価基準】

* 4回の定期試験と実技の習得状況を総合して行う。
* 定期試験の平均点〔80%〕+実技〔20%〕

【学生へのメッセージ】

始業時間を厳守すること。また、本授業で学んだ知識を今後の日常生活にいかし、生涯にわたり健康な生活を送ることができるよう努力して欲しい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

【授業科目名】英語Ⅴ English Ⅴ**【対象クラス】** 5 年全学科**【科目区分】** 基礎科目・選択

(教育目標との対応：F－2，F－3，A－2)

(JABEE 基準との対応：f，b，a)

【授業形式・単位数】 講義・2 単位**【開講時期・授業時数】** 通期・60**【担当教員】** 岩下 いずみ (共通教育科)

(教員室) 共通教育科目棟 3F 岩下教員室

宇ノ木 寛文 (共通教育科)

(教員室) 共通教育科目棟 2F 宇ノ木教員室

【科目概要】

英語Ⅴは、英語Ⅰ，Ⅱ，及びⅢで修得した言語知識・言語能力を、**科学技術分野での研究や就職後の仕事へ活かし、異文化理解**に役立てていくための科目である。主に、**進学希望者を対象**とし、より**専門的で高度な英語の知識と運用能力の修得**をサポートする。

科学技術系を含め様々な分野における英語に触れるとともに、**国際的コミュニケーションの基礎力**を伸長していくことをねらいとする。文章読解、聴解、また初歩的なプレゼンテーションなども行う。

【授業方針】

授業は、教科書を用いた講義形式で進めていく。講義に加えて、**4 技能 (speaking, listening, reading, writing) を実践的な運用能力へ発展させるために**、音読練習、ディクテーション、既習語彙・構文の口頭練習等の**トレーニング**を行う。随時、**文法事項・語彙の小テスト**を実施する。

また、進度に応じて**プレゼンテーション**のトレーニングをおこなう。プレゼンテーションに関しては、今までの英語学習で培った知識を用いながら、相手に理解してもらえるような**スピーチ**および**プレゼンテーション**をおこなう**トレーニング**をする。また適宜**CALL 教室の機器**も活用した**トレーニング**も行う。

【学習方法】

毎回、予習・復習箇所とその取り組み方を指示する。短期間に集中的に工業英語の基礎を習得するために、十分な予習、復習を行った上で授業に臨むことが求められる。

【達成目標】

1. **さまざまな英文**を読み、**内容を正確に理解**することができる。
2. **さまざまな分野について**内容を理解した英文を、**正確な発音、イントネーションで音読**することができる。
3. **さまざまな分野についての英語**を聞き、**正確に内容**

を理解し、**また書き取**ることができる。

4. **習得した言語材料や英語表現を用いて**、自分の意見を**英語で表現**できる。

【教科書等】

教科書：『Duo セレクト：厳選英単語・熟語 1600』 鈴木陽一 (アイシーピー)

『Life with Snoopy：スヌーピーと学ぶライティングとリスニング』 小中秀彦 (南雲堂)

プリントを適宜使用

【授業スケジュール】

第1週：ガイダンス

第2週～8週：読解、聴解、英作文トレーニング、前期中間試験

第9週～15週：試験返却・解説、読解、聴解、英作文トレーニング、(前期末試験)

第16週～23週：英作文トレーニング、後期中間試験

第24週～30週：試験返却・解説、英作文トレーニング、(学年末試験)

【関連科目】

1～4 年次までの英会話を含む英語科目、技術英語、専門英語。専攻科における上級英語とスピーチコミュニケーション。

【成績の評価と評価基準】

- * 目標項目は定期試験と小テストで確認する。
- * 最終成績は定期試験を 80%、提出物や小テストの評価を 20%として算出する。授業担当者およびその授業の進度や、学習の習熟度により、算出割合を変更することがある。60 点以上を合格とする。なお、教員が必要と認めた時、再試験を実施する場合がある。

【学生へのメッセージ】

- ・ 国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。
- ・ 講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認すること。

【授業科目名】 数学応用力養成セミナー
Seminar B1

【対象クラス】 4 年全学科（1 クラス開講）

【科目区分】 特別選択科目・選択
（教育目標との対応：E-2）

【授業形式・単位数】 演習・1 単位

【開講時期・授業時数】 後期・30

【担当教員】 濱田さやか（共通教育科）
（教員室） 一般科目棟 2F 濱田教員室

【科目概要】

本科目では、数学Ⅰおよび数学Ⅱで学んだ学習内容に関するいろいろな応用問題を取り扱う。

また、本科目は数学Ⅰおよび数学Ⅱの学習内容をさらに応用することによる考える力の養成を目標として、学生一人一人が自学自習を行うことにより、学習の習慣や方法が身につくように支援する。

【授業方針】

主に数学Ⅰおよび数学Ⅱの学習内容に関する問題のほか、「実用数学技能検定」の2級程度の問題を解くことを行う。また、いろいろな応用問題を通じて、多くの公式や今までに習得した知識を適切に使うことができるようになることを目指す。

【学習方法】

いろいろな種類の応用問題を繰り返しとくことにより理解力を深めていく。また、学生一人一人が自学自習を行う。

【達成目標】

1. □数学Ⅰおよび数学Ⅱで学んだ学習内容の応用による考える力の養成という本科目の趣旨を理解し、自分から積極的に参加し自己研鑽に活用できる。
2. □演習の繰り返しによって理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねが大切であることを学ぶ。

【教科書等】

教科書：新編 高専の数学1、2（第2版）

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

問題集：1）新編 高専の数学1 問題集(第2版)

田代嘉宏編 森北出版

2）ドリルと演習シリーズ

微分積分、線形代数

日本数学教育学会 高専・大学部会

教材研究グループ TMAS 編 電気書院

【授業スケジュール】

数学Ⅰおよび数学Ⅱに関する応用問題、また実用数学技能検定2級の過去に出題された問題などを取り入れながら、数学力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う。

【関連科目】

本科1年 数学Ⅰ

本科2年 数学Ⅱ

【成績の評価方法と評価基準】

本科目の取り組み状況を、担当教員によるポートフォリオにより評価する。

また、評価はS、A、B、C、Fで行う。

【学生へのメッセージ】

○基礎定着セミナー1は「自学自習」を重要視して実施されているので、学生諸君は積極的にこの科目を活用してもらいたい。

○基本問題を何回も正確に解くことが大切です。また、講義や演習に関する質問は、数学科全員で対応しています。放課後を利用し気軽に声をかけてください。

【授業科目名】英語応用力養成セミナー**Seminar B2****【対象クラス】** 2～4年全学科（1クラス開講）**【科目区分】** 特別選択科目・選択
（教育目標との対応：E-2）**【授業形式・単位数】** 演習・1単位**【開講時期・授業時数】** 前期・30**【担当教員】** 宇ノ木 寛文（共通教育科）
（教員室）共通教育科目棟2F 宇ノ木教員室**【科目概要】**

このセミナーは、英語Ⅰ・Ⅱで既習の事項が定着していることを前提に、応用的な英語運用力を伸長することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、応用的学習の習慣や方法が身につくよう支援を行うことを目的に開講されている。

【授業方針】

本演習では、応用的英語運用力の定着を図るために、**問題集を用いた演習**に加えて、**音読練習・ディクテーション等のトレーニング**を行う。また、演習では、**英語検定試験2級**の問題集なども用い、資格試験に関する**学習方法・習慣の確立**を目指した指導も行う。実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

【学習方法】

授業中に、**予習や復習**に関する指示を行うので従うこと。また、意味・発音・イントネーションを理解した**既習の英文を何度も、音読やディクテーション**を行うのも効果的である。英語Ⅰ・Ⅱで用いた教科書を用いて、自宅での積極的な英語トレーニングを期待する。

【達成目標】

1. 応用的英語運用力を伸長するという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。
4. 英語検定などの資格試験の形式に習熟し、学習方法などを身につける。

【教科書等】

教科書はセミナー開始後購入の連絡をします。

【授業スケジュール】

英語Ⅰ・Ⅱに関する受講生の習熟度に応じて、必要な場合には英語Ⅰ・Ⅱの既習の事項も取り入れながら、問題演習を通じて応用的運用力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

【関連科目】

このセミナーは英語Ⅰ・Ⅱで習得する事項の定着を前提とした科目である。

【成績の評価と評価基準】

目標項目1，2，3，4とも、各週の演習における取り組み状況の評価した教員によるポートフォリオにより、S、A、B、Cで評価する。

【学生へのメッセージ】

一般科応用力養成セミナーは、「自学自習に基づく応用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してもらいたい。

【授業科目名】 進路支援セミナー（数学）**Seminar C1****【対象クラス】** 4～5 年全学科（1 クラス開講）**【科目区分】** 特別選択科目・選択
（教育目標との対応：E-2）**【授業形式・単位数】** 演習・1 単位**【開講時期・授業時数】** 前期・30**【担当教員】** 濱田さやか（共通教育科）
（教員室） 一般科目棟 2F 濱田教員室**【科目概要】**

本科目では、数学Ⅰ、ⅡおよびⅢで学習してきた基礎的な事項の確認と、より高度な数学関連項目へのアプローチができるような演習を行う。

また、卒業後の進路で生かすための数学的思考力を伸ばすことを目標として、学生一人一人が自学自習を行うことにより、学習の習慣や方法が身につくように支援する。

【授業方針】

本科目では、数学Ⅰ、数学Ⅱおよび数学Ⅲを基礎とした複雑な計算やいろいろな学習内容が複合した問題などを取り扱う。必用に応じて既習事項の解説も行う。また、これらの演習通じて数学的思考力の伸長を目指す。

【学習方法】

既に学んだ内容を、いろいろな場面に適用して問題を解くことで、数学的思考力を強化していく。また、学生一人一人が自学自習を行う。

【達成目標】

1. ☐ 卒業後の進路で生かすための数学的思考力を伸ばす支援を行うという本科目の趣旨を理解し、自分から積極的に参加し自己研鑽に活用できる。
2. ☐ 基礎的内容を習熟することの大切さと、その知識を使ってより複雑な問題を考えていく学習方法を身につける。

【教科書等】

教科書：新編 高専の数学 1、2、3（第2版）

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

問題集：1）新編 高専の数学 1、2、3
問題集（第2版）

田代嘉宏編 森北出版

2）ドリルと演習シリーズ

微分積分、線形代数

日本数学教育学会 高専・大学部会

教材研究グループ TAMS 編 電気書院

【授業スケジュール】

数学Ⅰ、数学Ⅱおよび数学Ⅲの基礎的内容の確認と、より高度な数学関連項目の問題などを取り入れながら、数学的思考力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う。

【関連科目】

本科1年 数学Ⅰ

本科2年 数学Ⅱ

本科3年 数学Ⅲ

【成績の評価方法と評価基準】

本科目の取り組み状況を、担当教員によるポートフォリオにより評価する。

また、評価はS、A、B、C、Fで行う。

【学生へのメッセージ】

○基礎定着セミナー1は「自学自習」を重要視して実施されているので、学生諸君は積極的にこの科目を活用してもらいたい。

○基本問題を何回も正確に解くことが大切です。また、講義や演習に関する質問は、数学科全員で対応しています。放課後を利用し気軽に声をかけてください。

【授業科目名】進路支援セミナー（英語）

Seminar C2

【対象クラス】 4～5 年全学科（1 クラス開講）**【科目区分】** 特別選択科目・選択
（教育目標との対応：E-2）**【授業形式・単位数】** 演習・1 単位**【開講時期・授業時数】** 後期・30**【担当教員】** 高木 朝子（共通教育科）
（教員室）共通科目棟 3F 高木教員室**【科目概要】**

このセミナーは、本校で学習してきた英語の基礎的事項を卒業後の進路で生かすために、より実践的な英語運用力を伸長することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、応用的学習の習慣や方法が身につくよう支援を行うことを目的に開講されている。

【授業方針】

本演習では、実践的英語運用力の定着を図るために、問題集を用いた演習に加えて、音読練習・ディクテーション等のトレーニングを行う。また、演習では、TOEIC の問題集なども用い、資格試験に関する学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

【学習方法】

・毎回、授業で使用するハンドアウト等から予習、復習箇所とその取り組み方を指示する。演習活動を有意義なものにするために、十分な予習、復習を行った上でセミナーに臨むことが求められる。

【達成目標】

1. 実践的英語運用力を伸長するという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。
4. TOEIC などの資格試験の形式に習熟し、学習方法などを身につける。

【教科書等】

教科書、副教材共に教員より配布するハンドアウトを用いる。

【授業スケジュール】

本校で学習した英語に関する受講生の習熟度に応じて、必要な場合には既習の事項も取り入れながら、問題演習を通じて実践的運用力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

【関連科目】

このセミナーは本校で学習したあらゆる英語科目で習得する事項の定着を前提とした科目である。

【成績の評価と評価基準】

目標項目1、2、3、4とも、各週の演習における取り組み状況を評価した教員によるポートフォリオにより評価する。

【学生へのメッセージ】

一般科進路支援セミナーは、「自学自習に基づく実践的な知識の運用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してもらいたい。

【授業科目名】進路支援セミナー（小論文）**Seminar C3****【対象クラス】** 4～5年全学科**【科目区分】** 特別選択科目・選択
(教育目標との対応：E-2)**【授業形式・単位数】** 演習・1単位**【開講時期・授業時数】** 後期・30**【担当教員】****道園 達也**（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟1F 道園教員室

時松 雅史（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟1F 時松教員室

小林 幸人（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟1F 小林教員室

遠山 隆淑（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟3F 遠山研究室

【科目概要】

このセミナーは、進学や就職の際に重要となる文章力の向上を目指して開講される。文章力は、技術者にとって必要なコミュニケーション能力の一つである。文章を用いたコミュニケーションは、自らを反省的に捉え返す自己分析の技法、様々な社会的な問題や課題に関する分析能力や自ら考察した事柄を分かりやすくまとめる能力を必要とする。このセミナーでは、小論文演習を通じて、それらの能力向上を目指す。

【授業方針】

いくつかのテーマを設定し、文章作成指導の後、受講者自身による情報収集・文章作成等の演習を行う。また、それぞれの受講者の担当教員による反復的な個別指導を行うことによって、文章力の向上を図る。

なお、セミナーの実施形態の都合上、受講者数に制限を設けることがある。

【学習方法】

- ・ 文章力を身につけるためには、やはり普段から文章を書くことが重要です。
- ・ また、小論文対策として、日頃から時事問題や自分の専門分野に関する問題などに注意すること。
- ・ 漢字の知識や基本的な文章作法などは、普段から文章を書き、読むことで身につけるように心がけてください。
- ・ 進路支援を目的としていますので、自分の進路選択に関わる情報を積極的に収集するようにしてください。

【達成目標】

1. □必要な情報を検索する方法を理解し、それらを収集・整理することができる。
2. □様々な課題について、問題点を理解し、それらを整理して文章にまとめることができる。
3. □自分の考えを分かりやすく人に伝えることができる。

【教科書等】

特に指定しない。

【授業スケジュール】

ガイダンスの後、担当教員と受講者との間でスケジュールを決定する。

【関連科目】

本科4年生「国語表現」他、国語系および社会系科目と関連する。

【成績の評価と評価基準】

左記学習・教育目標について、提出課題を用いて評価する他、課題の提出状況や個別指導での面談状況を考慮し、S、A、B、Cで成績を評価する。

【学生へのメッセージ】

一般科進路支援セミナーは、「自学自習に基づく実践的な知識の運用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してもらいたい。

【授業科目名】一般特別セミナー(外部資格単位)**Extra Seminar****【対象クラス】** 全学年・全学科**【科目区分】** 特別選択科目・選択

(教育目標との対応：E-2)

【単位数】 最大4単位**【担当教官】** 久保田 智 ほか (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟2F 久保田教員室

【科目概要】

この科目は、資格取得などを通して、技術者としての自主性を高めさせることを目標としている。本セミナーでは、学生自身が目標をそれぞれで設定することを基本とし、目標を達成したときに単位として認定を行うプログラムである。代表的な資格をスケジュールに示す。

なお、このシラバスに記載しているもの以外の資格については、学生の申請に応じて教務委員会で審議し、認定を行うこともあります。

【授業方針】

本セミナーは、資格取得等に向けた学生の自主的な取組に対して単位を認定するプログラムです。到達目標は各自で設定し、これを達成できることを単位認定の基準とします。各自、自分の目標に対して努力を行ってください。

【達成目標】

1. 各自が**到達目標**を設定し、目標達成のために**計画**を立てられる。
2. 設定した目標を達成するために必要な**資料や情報**を集め、それらを取組の中で**活用する**ことが出来る。
3. 目標を達成するまでに必要な課程の中で**弱点を克服する**ことが出来る。
4. 当初設定した**目標を達成する**ことが出来る。
5. 取り組みが修了した段階で、簡単に**報告書(レポート)**としてまとめることが出来る。

【教科書等】

教科書：特に指定しない

参考書：適宜、教員と相談すること

【授業スケジュール】

代表的な資格試験について以下に挙げる。このほかのものについては、学生の申請によって教務委員会で審議する。

○漢字能力技能検定 1単位

認定基準：2級以上

○実用英語技能検定 1単位

認定基準：準2級、ただし2級を5年時に取得した場合は、2級も特別セミナー単位として認定する。

○実用数学技能検定 1単位

認定基準：2級以上

【関連科目】

「専門特別セミナー」

【成績の評価方法と評価基準】

本セミナー単位は、学生からの申請書が提出された後に審議する。また、単位発効は申請された段階で審議し、発効は年度ごととする。

【学生へのメッセージ】

本セミナーは、学生の向上心に対して単位を認定するものです。積極的に取り組んでください。また、質問・相談等は随時受け付けます。関係する教員のスケジュール等を確認して、来室してください。

※注意事項

1. 単位認定には自己申請が必要です。申請書類を学生課教務係で受け取り、必要事項を記入のうえ、資格の合格証明書を添えて、学生課教務係に提出してください。
2. ある資格の下位(上位)のランクで単位を取得した後、同じ資格の上位(下位)のランクを取得しても単位は認められません。
3. 4年次より以前の実用英語技能検定の2級の合格に対しては、「一般科特別セミナー」ではなく、「英語Ⅳ」の単位として2単位が認定されます。
4. 不明な点は担当教員に尋ねてください。